水稲管理情報 No.1

早期水稲の中間管理および普通期水稲の田植時の注意点について

平成３０年６月７日
京築普及指導センター
Ｊ　Ａ　福　岡　京　築

早期水稲（4 月中旬～5 月上旬頃植え）

○ 生育概況

田植えが始まった4月中旬以降、平年よりも気温が高く推移したため稲の初期生育は順調です。今年は梅雨入りが5月28日頃と平年より8日早くなっており、向こう1か月予報では降水量は平年並から多く、気温は平年並～高い見込みです。今後は中干しを早めに始める等、以下のことに気を付けて管理を行いましょう。

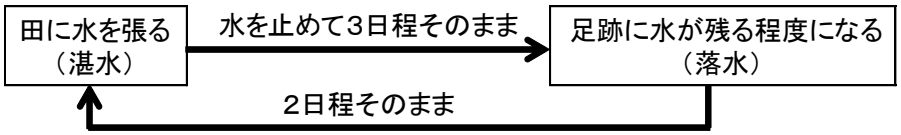
○今後の管理

１　水管理

4月中旬～5月上旬頃植えの早期水稲では、田植え後40日程度で有効茎数が確保(坪当たり60株植えで茎数18～20本、50株植えで22～24本)されますので、6月上旬～6月中旬頃に中干しを開始しましょう。

中干し終了の目安は、田面に小さなひびが入る程度です。田面が白く乾くまで中干しを行わないようにしましょう。

中干し後は、下図を目安に間断かん水（３湛２落）を行いましょう。

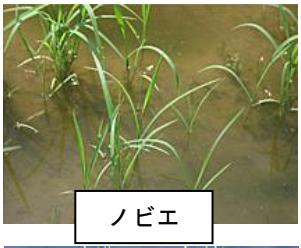


※幼穂が出来始めると新しい根は伸びませんので、中干し後は間断かん水により今ある根を健全に保ちましょう。

２　雑草対策

田植え後、右図写真のような雑草が残った場合は、残った雑草の種類に応じて、下表の除草剤から選択して使用してください。

除草剤、農薬の使用にあたっては、使用基準を確認して、周辺に飛散の無いように十分注意しましょう。


ノビエ

コナギ(イモグサ)

ホタルイ(イグサ、ジミ)

ｷｼｭｳｽｽﾞﾒﾉﾋｴ(ﾖｺﾖｺ)

表１　中期除草剤（稲作ごよみ記載の除草剤）

対象雑草	農薬名	使用量（10a当たり）	散布水量（10a当たり）	使用時期	散布方法
ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	1 kg		田植後7日～ﾉﾋﾞｴ4葉期まで	たん水
	クリンチャーEW	100mℓ	25～100ℓ	田植後20日～ﾉﾋﾞｴ6葉期まで	落水
広葉（イモグサ、イグサ等）	バサグラン粒剤	３～４kg		田植後15～55日以内	落水
	バサグラン液剤	500～700mℓ	70～100ℓ	田植後15～55日以内	落水
ノビエ＋広葉	カービー1キロ粒剤	1 kg		田植後15日～30日、ﾉﾋﾞｴ3葉期まで	たん水
	クリンチャーバスME液剤	1000mℓ	70～100ℓ	田植後15日～ﾉﾋﾞｴ5葉期まで	落水

※クリンチャー剤は、キシュウスズメノヒエ（ヨコヨコ）にも有効です。

普通期水稲（5 月中旬植え～）

○基肥の施用について

前年大豆を作付けしたほ場では、土壌に残っている窒素量が多く、倒伏の恐れがあるので、下表を参考に、基肥を稲作ごよみの基準の半分程度に減肥してください。
（※穂肥はこよみを基準に施肥してください。）

表２　稲作ごよみの基準の半分の施肥量（10a当たり）（目安）

品種	全層施肥	側条施肥
	ベスト444（14-14-14）	
夢つくし	15kg	13kg
元気つくし	18kg	15kg
ヒノヒカリ	20kg	18kg
ヒヨクモチ	25kg	20kg

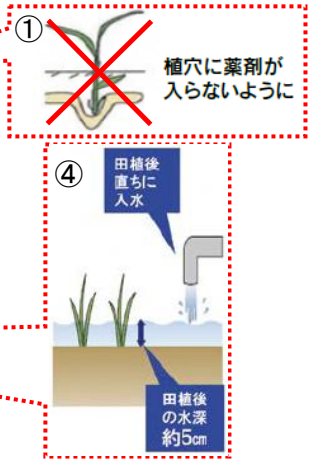
※大豆後では、一発肥料は使わないのが原則です。
※しかし一発肥料を使用する場合は、基肥を基準の半分程度に減肥し、穂肥の時期に肥料が足りなくなる恐れがありますので、葉色を見て必要であれば穂肥を施用してください。

○除草剤の使用について

- 除草剤の1キロ粒剤の袋は箱施薬の袋と同じ大きさで、間違えやすいので注意してください。（※間違えて苗に除草剤を散布して田植えすると必ず枯れます。）
- 田植え同時処理について

近年、除草剤の田植え同時処理において薬害・効果不足が見られます。薬害・効果不足を防ぐためには、以下のことに注意して田植えを行ってください。

① 耕起、代かきを丁寧に行う。
（田面が固いと植穴の戻りが悪く、薬剤が根に直接触れ、薬害の原因に。）
② 田植えは「ひたひたの浅水」で行う。
（水が少ないと薬剤が拡散せず、薬害・効果不足の原因に。）
③ 植え付け深度の確認。
（浅植えでは根が露出し、薬害の原因に。）
④ 田植後は直ちにたっぷり入水する。
（散布後に水が少ないと、効果不足の恐れ。）
⑤ 田植後７日間は落水、差し水をしない。
（途中で落水や入水を行い水を動かすと、除草剤の効果不足の恐れ。）



○ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）対策について

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）は、田植え直後のイネを食害し、欠株等の被害を引き起こします。以下のことを参考に防除対策を行ってください。

① 田植後３週間（※除草剤使用時期を除く）までは「ひたひた水（超浅水）」管理を行い、被害軽減を図る。
② 田面が均平でないと水深の深い所が被害を受けるので、田面の均平化に努める。
③ スクミノンを10a当たり1～4kg浅水散布する。
④ 厳寒期（１月中～下旬）にほ場を浅耕（深さ５cm程度）して、越冬数を減少させる。

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

浅水管理

ほ場内の凹凸が原因と思われる被害発生ほ場

水稲管理情報 No.3

早期・早植え水稲の収穫期および普通期水稲の管理について

平成３０年８月２日
ＪＡ福岡京築
京築普及指導センター

○生育・気象の概況について

本年は、田植え後の気温が高く推移した影響で生育は進み、出穂期は昨年より１日程度早くなっています。また、長期予報によると今後も気温が高い日が続くと予想されており、収穫期は昨年より早くなると考えられます。

そのため、本情報を参考に、刈遅れないように適期収穫に向けた作業計画を立てましょう。

早期・早植え水稲

○収穫期予想について

品種	田植日	出穂日	成熟期予想	備考
夢つくし	4月22日	7月16日	8月16日 ～ 8月20日	※表は目安です。 今後の平均気温が平年より高いと、収穫時期は早くなります。 **実際の収穫時期はほ場ごとの熟れ具合を必ず確認しましょう。**
	4月29日	7月19日	8月19日 ～ 8月24日	
	5月6日	7月22日	8月22日 ～ 8月27日	
	5月13日	7月25日	8月26日 ～ 8月30日	
	5月20日	7月28日	8月29日 ～ 9月3日	
	5月27日	7月31日	9月1日 ～ 9月6日	

○今後の管理について

（１）収穫前の水管理

収穫の１週間前までは間断かん水を続け、籾の充実向上を図りましょう（早すぎる落水は充実不足につながります。）

（２）台風接近時の管理

成熟期に入っている場合は、台風が来る前に収穫しましょう。収穫まで１週間以上かかる場合は、深水にして倒伏や脱水症状を防ぎましょう。

普通期水稲

○出穂期予想

品 種	田植日	出穂期の予想	備考
夢つくし	6月 3日	8月 4日頃	※あくまで、標準的なほ場での予想です。ほ場ごとの出穂期は幼穂長を確認してください。 ※幼穂長 2～5 ㎜で出穂 20～18 日前（目安）。
	6月10日	8月 8日頃	
	6月17日	8月11日頃	
	6月24日	8月14日頃	
元気つくし	6月10日	8月15日頃	
	6月17日	8月17日頃	
	6月24日	8月19日頃	
ヒノヒカリ	6月10日	8月22日頃	
	6月17日	8月25日頃	
	6月24日	8月28日頃	

○病害虫防除について

（１）基幹防除

いもち病、カメムシ類、ウンカ類等の被害予防のため、**必ず基幹防除を実施してください**。（防除薬剤は下表参照。）また、現在一部ほ場ではいもち病の発生が見られます。いもち病発生ほ場では、被害軽減のため**速やかに**防除を行ってください。

◆　基幹防除薬剤（稲作ごよみ記載の薬剤）

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量
ﾉﾝﾌﾞﾗｽﾄﾚﾊﾞﾘﾀﾞ粉剤DL	いもち病 紋枯れ病 ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類	4kg

※液剤の場合

薬剤名	10a当たり使用量
ﾋﾞｰﾑｿﾞﾙ	1,000倍
＋ﾓﾝｾﾚﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	1,500倍
＋ｷﾗｯﾌﾟﾌﾛｱﾌﾞﾙ	2,000倍

（２）補正防除

本年は気温が高いため、**カメムシ類、ウンカ類の発生が多いことが予想されます**。基幹防除を行った上で、カメムシ類、ウンカ類の発生が多い場合は、以下の表を参考に補正防除を行ってください。

＜カメムシ類＞

被害軽減のために、侵入源である畦畔や休耕田などの雑草管理を徹底しましょう。（防除薬剤は下表参照。）ただし、出穂直前になって草刈りをすると雑草に生息していたカメムシをほ場内へ追い込むことになりますので、**畦畔の草刈りは出穂1週間前までに実施しましょう。**

◆　防除薬剤（稲作ごよみ記載の薬剤）

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量	使用時期
ｷﾗｯﾌﾟ粉剤DL	ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類	3～4kg	収穫14日前まで

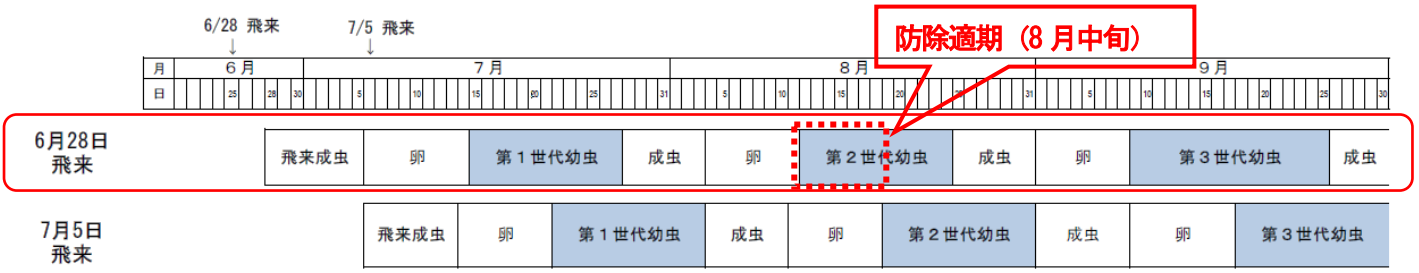
※液剤の場合

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期
ｷﾗｯﾌﾟﾌﾛｱﾌﾞﾙ	2,000倍 （希釈水量 60～200ℓ）	収穫14日前まで

＜ウンカ類＞

本年は現況ではウンカ類の飛来数は少ないですが、今後も高温が続くと予想されるため、ウンカ類の発生には注意が必要です。そのため、特に10月以降に収穫するほ場については、トビイロウンカの発生状況に注意し、**防除適期（第2世代幼虫が発生すると考えられる8月中旬）**に防除を実施しましょう。（防除薬剤は下表参照。）

なお、夢つくしは穂ぞろい期防除と時期が重なるため、基幹防除で対応してください。



トビイロウンカの発生予想パターン図（病害虫防除所　7月12日作成）

◆　防除薬剤（稲作ごよみ記載の薬剤）

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量
ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞﾛﾑﾀﾞﾝﾓﾝｶｯﾄF粉剤DL	ｳﾝｶ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ 紋枯病	3～4kg

※液剤の場合

薬剤名	10a当たり使用量
ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞ水和剤	1,000倍
＋MR.ｼﾞｮｰｶｰEW	2,000倍
＋ﾓﾝｾﾚﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	1,500倍

水稲管理情報 No.4

飼料用米の管理について

平成３０年８月２日
ＪＡ福岡京築
京築普及指導センター

１　生育・気象の概況について

本年は、田植え後の気温が高く推移しています。そのため、飼料用米も主食用米と同様に、生育が昨年より１日程度早くなっています。

また、今後も気温が高い日が続くと予想されていますので、穂肥や病害虫防除について、適期を逃さずに作業できるよう、本情報を参考に計画を立てましょう。

２　穂肥について

品種	田植日	出穂日（予想）	穂肥時期の目安		
			１回目	２回目	施肥量
夢あおば	6月20日	8月19日	8月 1日	1回目の7～10日後	１回目、２回目ともに硫安15kg/10a
	6月25日	8月21日	8月 3日		
ミズホチカラ	6月20日	9月 3日	8月14日		
	6月25日	9月 5日	8月16日		

３　病害虫防除について

本年はトビイロウンカや吸汁性カメムシの発生が多くなると予想されますので、下表を参考に、**基幹防除を必ず行う**とともに、必要に応じて補正防除を行いましょう。

また、昨年稲こうじ病の発生が多かったほ場では、今年も発生する可能性が高いので、補正防除を行いましょう。

※ 個人で養鶏農家等と契約し、籾出荷される場合は、家畜へ籾のまま給餌されることがあり、出穂後の農薬使用が制限されますので、防除の際は事前にＪＡ等にご相談ください。

（ただし、下表のキラップは出穂後も使用可能）

ＪＡ出荷の場合は、ＪＡで籾摺り後、実需者に出荷するので、出穂後も防除できます。

◆　主な防除薬剤

	薬剤名	使用量（10a あたり）	対象病害虫等	散布時期
基幹防除	**アプロードロムダンモンカットＦ粉剤ＤＬ**	**3～4 kg**	**ウンカ、コブノメイガ、紋枯病**	**出穂前**
補正防除	キラップ粉剤ＤＬまたはキラップ粒剤	3 kg	ウンカ、カメムシ類	収穫 14 日前まで
	モンガリット粒剤	3～4 kg	稲こうじ病、紋枯れ病	収穫 45 日前まで

除草剤、農薬の使用にあたっては、使用基準を確認して、
周辺に飛散の無いように十分注意しましょう。

水稲管理情報 No.5

普通期水稲の収穫期予想について

平成３０年８月１６日
ＪＡ福岡京築
京築普及指導センター

○生育・気象の概況について

本年は、田植え後の気温が高く推移した影響で生育は進み、出穂期は昨年より１～２日程度早くなっています。また、長期予報によると今後も気温が高い日が続くと予想されており、収穫期は昨年より早くなると考えられます。

そのため、本情報を参考に、刈遅れないように適期収穫に向けた作業計画を立てましょう。

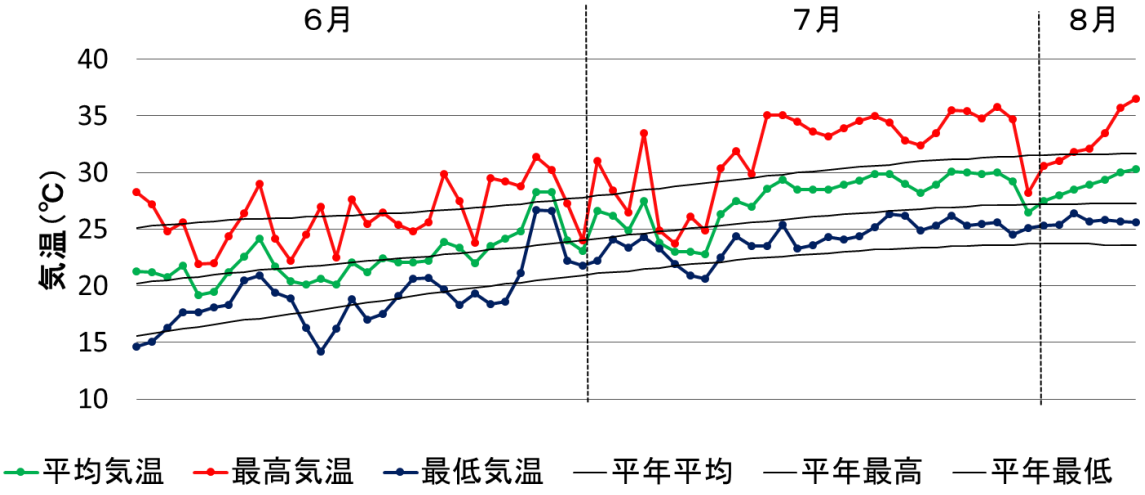


図１　本年の気象の推移（6 月 1 日～8 月 13 日、行橋アメダス）

○収穫期予想について

品種	田植日	出穂日	成熟期予想	備考
夢つくし	5 月 13 日	7 月 25 日	8 月 25 日 ～ 8 月 29 日	※表は目安です。 今後の平均気温が平年より高いと、収穫時期は早くなります。 **実際の収穫時期は、ほ場ごとの熟れ具合を必ず確認しましょう。**
	5 月 20 日	7 月 28 日	8 月 28 日 ～ 9 月 2 日	
	5 月 27 日	7 月 31 日	8 月 31 日 ～ 9 月 5 日	
	6 月 3 日	8 月 4 日	9 月 5 日 ～ 9 月 10 日	
	6 月 10 日	8 月 8 日	9 月 9 日 ～ 9 月 15 日	
	6 月 17 日	8 月 11 日	9 月 13 日 ～ 9 月 18 日	
	6 月 24 日	8 月 14 日	9 月 17 日 ～ 9 月 22 日	
元気つくし	6 月 10 日	8 月 15 日	9 月 20 日 ～ 9 月 24 日	
	6 月 17 日	8 月 17 日	9 月 23 日 ～ 9 月 26 日	
	6 月 24 日	8 月 19 日	9 月 25 日 ～ 9 月 29 日	
ヒノヒカリ	6 月 10 日	8 月 22 日	9 月 29 日 ～ 10 月 3 日	
	6 月 17 日	8 月 25 日	10 月 3 日 ～ 10 月 7 日	
	6 月 24 日	8 月 28 日	10 月 7 日 ～ 10 月 11 日	

※ほ場での収穫開始の目安は、総籾数の70～80%が黄化したときです（倒伏無しの場合）。
※刈遅れは胴割れ米の発生など品質低下につながるので、計画的に収穫しましょう。

○今後の管理について

（１）収穫前の水管理

収穫の１週間前までは間断かん水を続け、籾の充実向上を図りましょう（早すぎる落水は充実不足につながります。）

（２）台風接近時の管理

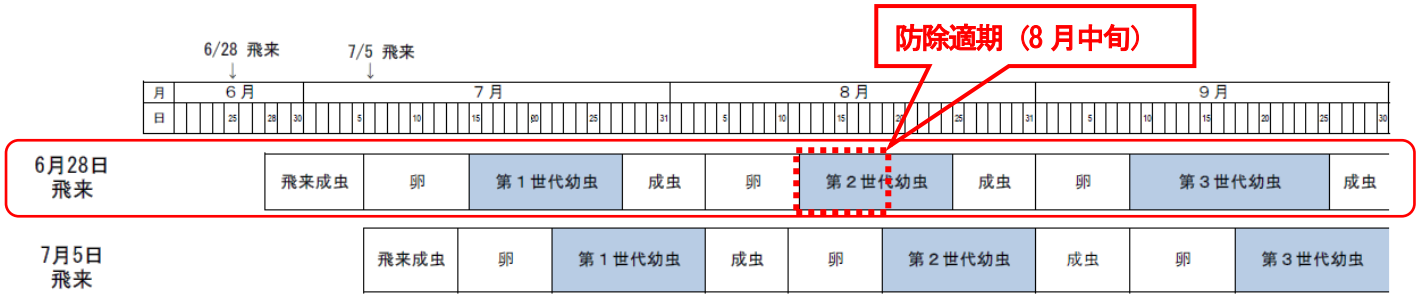
成熟期に入っている場合は、台風が来る前に収穫しましょう。収穫まで１週間以上かかる場合は、深水にして倒伏や脱水症状を防ぎましょう。

○病害虫防除について

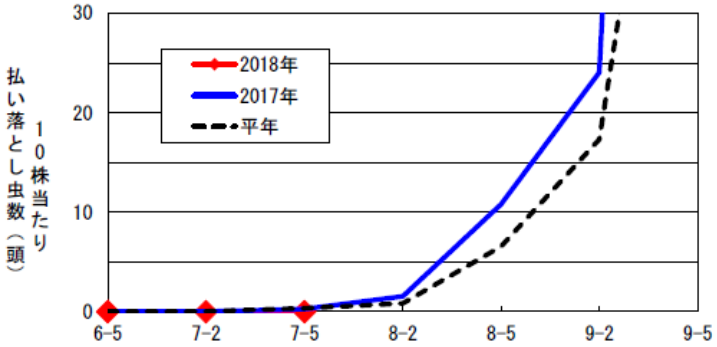
＜ウンカ類＞

本年は現況ではウンカ類の飛来数は少ないですが、今後も高温が続くと予想されるため、ウンカ類の発生には注意が必要です。そのため、特に10月以降に収穫するほ場については、トビイロウンカの発生状況に注意し、**防除適期（第2世代幼虫が発生すると考えられる8月中旬）**に防除を実施しましょう。（防除薬剤は下表参照。）

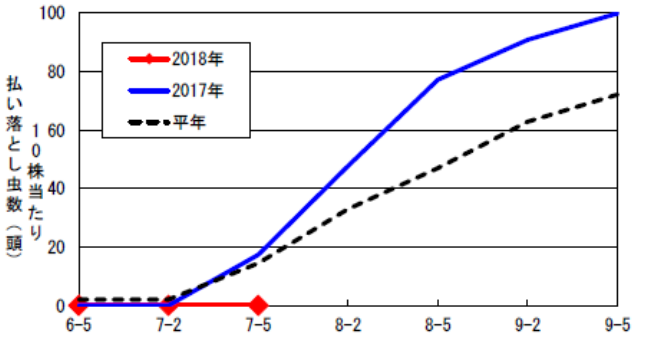
なお、夢つくしは穂ぞろい期防除と時期が重なるため、基幹防除で対応してください。



トビイロウンカの発生予想パターン図（病害虫防除所　７月 12 日作成）



トビイロウンカ密度の推移　　月－半旬



トビイロウンカ発生ほ場率の推移　　月－半旬

主な防除薬剤

薬剤名	対象病害虫	10a当たり使用量
ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞﾛﾑﾀﾞﾝ ﾓﾝｶｯﾄF粉剤DL	ｳﾝｶ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ 紋枯病	3～4kg

薬剤名	10a当たり使用量
ｱﾌﾟﾛｰﾄﾞ水和剤	1,000倍
＋MR.ｼﾞｮｰｶｰEW	2,000倍
＋ﾓﾝｾﾚﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	1,500倍

農薬の使用にあたっては、使用基準を確認して

周辺に飛散の無いように十分注意しましょう。

水稲管理情報 No.6

飼料用米の収穫・秋ウンカについて

平成３０年９月１４日
ＪＡ福岡京築
京築普及指導センター

１　生育・気象の概況について

本年は高温・多照により飼料用米の生育は良好ですが、降雨が少なく、一部地域では過乾燥による生育の遅れ、葉先の枯れ等も見られます。水の状況等、ほ場によって成熟期は若干前後しますので、実際の収穫時期は、ほ場を巡回し熟れ具合を必ず確認しましょう。

２　成熟期予想

（成熟期の目安は、籾水分２０%・黄褐色籾比率８０～９０%頃）

品種	田植日	出穂日	成熟期（予想）
夢あおば	6月20日	8月22日	10月8日～
	6月25日	8月24日	10月11日～
ミズホチカラ	6月20日	9月4日	11月5日～
	6月25日	9月6日	11月9日～

※早すぎる落水は充実不足・収量低下につながります。
成熟期前１週間までは間断かん水を続け、籾の充実向上を図りましょう。
※台風接近時は深水管理を行い、倒伏や急激な脱水症状を防止しましょう。

３　収穫時期について

〇夢あおば

夢あおばは早生品種のため、６月下旬植えで１０月上～中旬には成熟します。しかし、この品種は脱粒・穂発芽しにくい性質を持つため、**乾燥コストを低減するために、ほ場で籾水分を出来るだけ下げてから収穫します（立毛乾燥）。**

成熟期後は、共乾施設が荷受けを開始するまで、ほ場に水を当てずに立毛乾燥を行ってください。

〇ミズホチカラ

成熟期が夢あおばよりも遅いので立毛乾燥を行わず、共乾施設の荷受けが開始されたら、成熟期を迎えたものから収穫を行ってください。

４　秋ウンカ（トビイロウンカ）について

本年は**現在のところ秋ウンカ（トビイロウンカ）の発生は少ない状況**ですが、今後秋ウンカが発生した場合は、飼料用米やもち米など晩生品種で「坪枯れ」の発生が懸念されます。
今後も情報等に注意し、ほ場の巡回を行ってください。

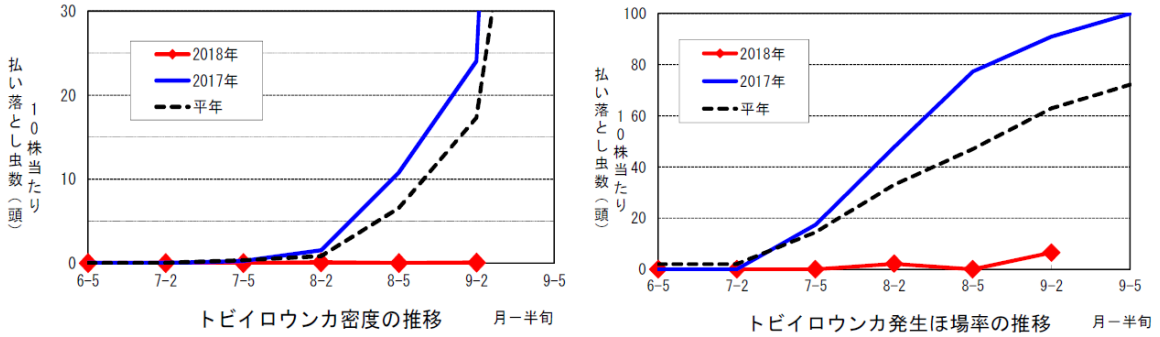


図　９月２半旬までのトビイロウンカ発生状況（福岡県病害虫防除所）

水稲管理情報 No. 7

普通期水稲の収穫期予想について（第２報）

平成３０年９月１４日
ＪＡ福岡京築
京築普及指導センター

１　生育・気象の概況について

本年は８月中旬以降も高温・多照が続いており、前回の収穫予想（水稲管理情報No. ５）よりも収穫期はさらに１日程度早くなっています。

そのため、本情報を参考に、刈遅れないように適期収穫に向けた作業計画を立てましょう。

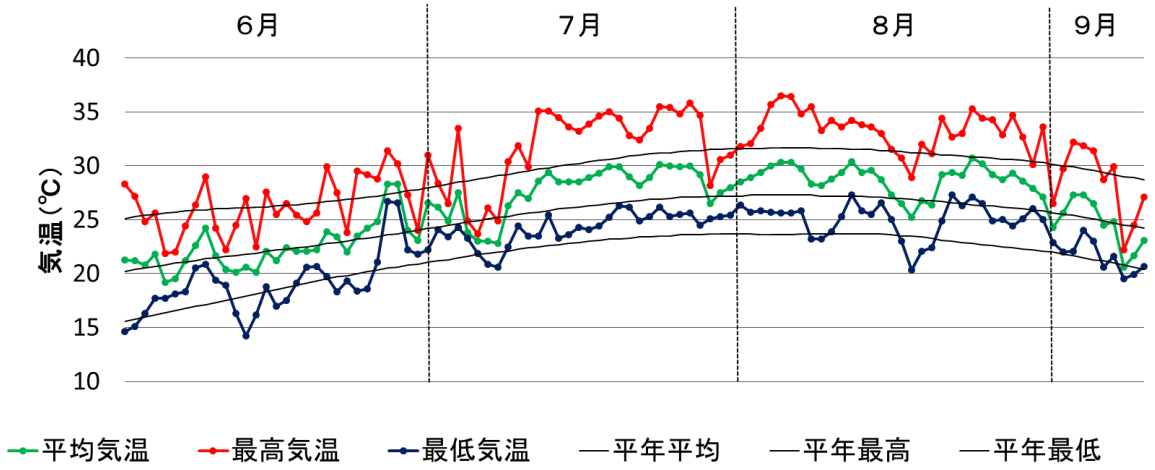


図　本年の気象の推移（６月１日 ～ ９月１０日、行橋アメダス）

２　今後の管理について

（１）収穫前の水管理

収穫の１週間前までは間断かん水を続け、籾の充実向上を図りましょう（早すぎる落水は充実不足につながります。）

（２）台風接近時の管理

成熟期に入っている場合は、台風が来る前に収穫しましょう。収穫まで１週間以上かかる場合は、深水にして倒伏や脱水症状を防ぎましょう。

３　収穫期予想について

品種	田植日	出穂日	成熟期予想	備考
夢つくし	６月10日	８月８日	９月８日 ～ ９月14日	表は目安です。今後の平均気温が平年より高いと、収穫時期は早くなります。 **※実際の収穫時期はほ場ごとの熟れ具合を必ず確認しましょう。**
	６月17日	８月11日	９月12日 ～ ９月17日	
	６月24日	８月14日	９月16日 ～ ９月21日	
元気つくし	６月10日	８月15日	９月19日 ～ ９月23日	
	６月17日	８月17日	９月22日 ～ ９月25日	
	６月24日	８月19日	９月24日 ～ ９月28日	
ヒノヒカリ	６月10日	８月22日	９月28日 ～ 10月２日	
	６月17日	８月25日	10月２日 ～ 10月６日	
	６月24日	８月28日	10月７日 ～ 10月11日	

※ほ場での収穫開始の目安は、総籾数の７０～８０%が黄化したときです（倒伏無しの場合）。

※刈遅れは胴割れ米の発生など品質低下につながるので、計画的に収穫しましょう。

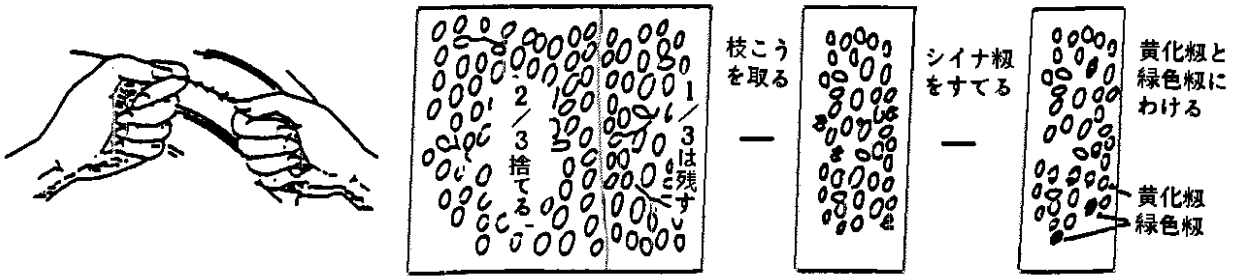
４　収穫適期の判定について

水稲の刈り遅れは胴割れ米の発生など品質低下につながるので、以下の方法を参考に計画的な収穫作業を行いましょう。

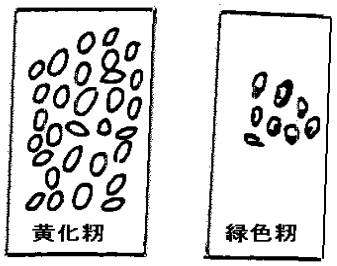
《黄褐色籾割合による収穫適期の判定方法》

② 田から平均的な穂を３穂取り、手でしごく。

②紙や手のひらの上でよく混ぜて１/３だけ残す。



③ 黄化籾と緑色籾の割合を出し、黄化籾が全体の７０～８０%であれば収穫適期です。



（測　定　例）

黄化籾（A）	緑色籾（B）		黄化籾割合
49粒	21粒	→	70 %
75	25	→	75
65	15	→	81

５　乾燥時の注意点

・収穫した籾の水分が高い時は、その都度、乾燥機に入れて通風しましょう。
・籾水分が２４%以上の場合、収穫後２時間以内に乾燥、または通風し始めましょう。
※高水分の籾を長時間放置するとヤケ米が発生し、品質が低下します。
※共乾施設への持ち込みも、収穫後２時間以内にお願いします。
・乾燥機についている水分検定器は、誤差を修正しておきましょう。
・取扱説明書に従い、乾燥を行って下さい。

６　調製時の注意点

・籾すり直前に水分を測定し、水分が多い籾は籾すりをしないで、再度乾燥させましょう。
・玄米の仕上げ水分は１５%です。
・籾温が高いと肌ずれしやすいので、乾燥直後の籾摺は行わないようにしましょう。
・肌ずれ米や籾・しいなが混入しないように注意しましょう。
・玄米の選別は１．８５mmです。